

浜の活力再生プラン
(第2期)

1 地域水産業再生委員会 浜プラン ID:1102027

組織名	岩屋地域水産業再生委員会
代表者名	会長 相馬 善意 (岩屋漁業協同組合 組合長)

再生委員会の 構成員	岩屋漁業協同組合、東通村つくり育てる農林水産課、青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所
オブザーバー	—

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	青森県下北郡東通村岩屋地区 漁業者数 23名 イカ釣り漁業 9経営体 一本釣り漁業 11経営体 小型定置網漁業 3経営体
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

東通村岩屋地区は青森県の津軽海峡側に位置し、夏は冷たいヤマセが吹きつけ、冬も海が荒れる厳しい気候風土にあるが、古くから水産業を基幹産業として栄えてきた地区であり、スルメイカ、サケを主にした釣り・定置漁業が中心となっている。地区の過去平均5年間の水揚げ量は、数量275トン、金額1億7千万円程で、その内イカ類の水揚げは、数量140トン、金額8千万円となっており、他にタコ、フノリ、アワビ、ウニも水揚げされる。

しかし、近年、主要魚種であるスルメイカ、サケ等の漁獲量減少、加えて燃油高や資材高騰などによる経営コストの増加により、地域の水産業を取り巻く環境は非常に厳しい状況である。

(2) その他の関連する現状等

近年は、漁業者の高齢化や漁労機材の老朽化による漁業生産への影響も懸念されているほか、築地市場から新設の豊洲市場への移転による流通の変化に伴う魚価価値への影響も懸念される。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

①迅速な箱詰め及び施氷による低温管理の継続により、漁獲物の付加価値向上や漁業収入の増加を

- 図る。
- ②海水殺菌装置の導入及び清浄な海水での洗浄の徹底により衛生管理を継続することで、漁獲物の付加価値を向上し漁業収入の増加を図る。
- ③各種水産物の加工品製造を増大し、加工品の東通ブランド化で水産物の付加価値を向上し、漁業収入の増加を図る。
- ④サケふ化場への良好な海産親魚の提供により稚魚の安定的な放流を図り、回帰資源の増大を図る。
- ⑤船底清掃及び減速航行により、燃油コストの削減を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・ 操業隻数、期間、漁獲量等の規制遵守による漁業及び資源管理措置
(青森県海面漁業調整規則)
- ・ 資源管理計画に基づく漁獲制限、休漁日等の設定による資源保護
(青森県資源管理指針、岩屋漁協資源管理計画)
- ・ 共同漁業権行使規則に基づく漁業期間、漁業方法、漁獲サイズ等の制限の徹底による資源保護
(岩屋漁協)

(4) 具体的な取組内容(毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目(令和3年度)

以下の漁業収入向上の取組及び漁業コスト削減の取組により、基準年から3.5%の所得向上を図る。

以降、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて、見直すこととする。

漁業収入向上のための取組	<p>1) 水産物の付加価値向上の取組</p> <p>① 当地区は幹線道路が限定され、水揚から消費地に届くまでに相当の時間を要するなど流通段階での漁獲物の品質低下が懸念される。前期浜プランではこれらに対する取組として、低温管理(5℃以下)の徹底や、水抜き穴発泡スチロール箱の導入等を行い、所得向上に努めてきたが、スルメイカの記録的な不漁により所得向上には至らなかった。また、イカ活締め器(商品名「イカ活チャ器」)による高鮮度保持の取組については、イカ釣り漁業者への普及が進まず、ほとんどのイカ釣り漁業者は取組を行わなかった。</p> <p>このため、今期浜プランでは、イカ釣り漁業者は、市場や水産物取扱業者の要望に沿って、季節毎に量を調整した砕氷を発泡スチロール箱の底部に押し詰め、コテを使用して表面を平らにしたのち、イカを並べ、混入物を防ぐためすぐに蓋をし、さらに直射日光等による高温化を防ぐため魚箱をシートで覆うことにより低温管理(5℃以下)を徹底する。</p> <p>また、溶解水によるイカの体色変色を防止するため、箱の底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を利用して白色化を抑制する。</p> <p>また、イカ活チャ器により高鮮度保持を行い、単価向上につなげる。漁協はこれらの取組に対して、イカ釣り漁業者を対象にイカ活チャ器講習会を開催し、利用の普及拡大と本格実施を推進し、漁業者はその技術の習得に努める。</p> <p>小型定置網漁業者は、ヒラメ・アイナメ・サクラマス等の船上活締めによる出荷量の増加、活締め後の迅速な箱詰め(迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理(5℃以下)を含む)の徹底に取組むほか、漁協は、全漁業者を対象に活締め技術講習会を開催し、技術の普及拡大及び適正実施の啓発に努め、漁業者はその技術の習得に努める。</p> <p>② 前期浜プランでは小型定置網漁業者各漁船へ海水殺菌装置の導入を検討していたが、サケの全国的な不漁により導入には至らなかったものの荷捌き所に海水殺菌装置を導入できたため、これによる殺菌海水で漁獲物の洗浄を徹底し、衛生管理を強化する。</p>
--------------	--

	<p>③ 前期浜プランでは、地元や近隣のむつ市住民及び観光客から漁協婦人部による水産加工品の販売を求める声が大きくなったことを踏まえ、東通村生産物等直売所で販売することにより所得の向上に繋がった。最近では、むつ市住民からの要望により市内のスーパーでも取り扱ってもらえることになり、更なる販売促進に向け、各漁業者や漁協加工場は、スルメイカや海藻類など鮮度落ちの早い水産物について、地元ニーズを踏まえつつ、スルメイカや海藻類（マツモ及びフノリ等）の加工品を製造し、出品することで所得の向上を図る。</p> <p>2) 良好なサケ海産親魚の供給等によるサケ回帰資源の増大</p> <p>④ 小型定置漁業者は、サケふ化放流事業を実施する近隣のふ化場に対し、定置網でとれる、成熟が進み、傷の少ない3kg以上の個体を、種苗生産向け親魚として前期浜プランでは60尾供給したが、今期浜プランでは、小型定置漁業者に本取組の理解を深めてもらうことで2倍の120尾の提供を目指し、種苗生産・放流数の安定化に繋げるとともに、河川環境改善のため上流部への植樹を行うことで、サケ回帰資源の増大による漁業所得の向上を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施</p> <p>⑤ 全漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	

2年目（令和4年度）

以下の漁業収入向上の取組及び漁業コスト削減の取組により、基準年から3.5%の所得向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>1) 水産物の付加価値向上の取組</p> <p>① イカ釣り漁業者は、適切な箱詰めと低温管理を徹底するほか、氷とスルメイカが直接触れないようにすることで白色化を抑制する。また、イカ活チャ器による高鮮度保持を行い、単価向上につなげる。漁協は、イカ活チャ器講習会を開催し、普及拡大と本格実施を推進し、漁業者はその技術の習得に努める。</p> <p>小型定置網漁業者は、サクラマス・ヒラメ・アイナメ等の船上活締めによる出荷量の増加、活締め後の迅速な箱詰め of 徹底に取組む。</p> <p>② 漁業者は、漁協荷捌き所に導入した海水殺菌装置を活用した殺菌海水による漁獲物の洗浄を徹底し、衛生管理を強化する。</p> <p>③ 漁業者や漁協婦人部員は、スルメイカ加工品や海藻類加工品の生産量を増やし、東通村生産物等直売所及びむつ市内のスーパーで販売することにより、漁家所得の向上を図る。</p> <p>さらに、流通・販売状況を把握しながら製品の品質向上の検討とPR活動強化、他地域への販路拡大の強化など、販売計画の見直しを随時行う。</p> <p>2) 良好なサケ海産親魚の供給等によるサケ回帰資源の増大</p> <p>④ 小型定置漁業者は、サケふ化場に対し、120尾のサケ成魚を種苗生産向け親魚として供給し、種苗生産・放流数の安定化に繋げるとともに、河川環境改善のため上流部への植樹を行うことで、サケ回帰資源の増大による漁業所得の向上を図る。</p>
漁業コスト削減	1) 船底清掃及び減速航行の実施

減のための取組	⑤ 全漁業者は、船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。
活用する支援措置等	

3年目（令和5年度）

以下の漁業収入向上の取組及び漁業コスト削減の取組により、基準年から8.9%以上の所得向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>1) 水産物の付加価値向上の取組</p> <p>① イカ釣り漁業者は、適切な箱詰めと低温管理を徹底するほか、氷とスルメイカが直接触れないようにすることで白色化を抑制する。 また、イカ活チャ器による高鮮度保持を行い、単価向上につなげる。漁協は、イカ活チャ器講習会を開催し、普及拡大と本格実施を推進し、漁業者はその技術の習得に努める。 小型定置漁業者は、サクラマス・ヒラメ・アイナメ等の船上活締めによる出荷量の増加、活締め後の迅速な箱詰めへの徹底に取組む。</p> <p>② 漁業者は、漁協荷捌き所に導入した殺菌海水装置を活用した殺菌海水による漁獲物の洗浄を徹底し、衛生管理を強化する。</p> <p>③ 漁業者及び漁協は、東通村生産物直売所で消費者のニーズを調査し、活締め対象魚種の拡大等を検討する。 漁業者や漁協婦人部員は、スルメイカ加工品や海藻類加工品の生産量を増やし、東通村生産物等直売所及びむつ市内のスーパーで販売することにより、漁家所得の向上を図る。 さらに、流通・販売状況を把握しながら製品の品質向上の検討とPR活動強化、他地域への加工販売の強化など、販売計画の見直しを随時行う。</p> <p>2) 良好なサケ海産親魚の供給等によるサケ回帰資源の増大</p> <p>④ 小型定置漁業者は、サケふ化場に対し、120尾のサケ成魚を種苗生産向け親魚として供給し、種苗生産・放流数の安定化に繋げるとともに、河川環境改善のため上流部への植樹を行うことで、サケ回帰資源の増大による漁業所得の向上を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施</p> <p>⑤ 全漁業者は、船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	

4年目（令和6年度）

以下の漁業収入向上の取組及び漁業コスト削減の取組により、基準年から12.4%以上の所得向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>1) 水産物の付加価値向上の取組</p> <p>① イカ釣り漁業者は、適切な箱詰めと低温管理を徹底するほか、氷とスルメイカが直接触れないようにすることで白色化を抑制する。 また、イカ活チャ器による高鮮度保持を行い、単価向上につなげる。漁協</p>
--------------	--

	<p>は、イカ活チャ器講習会を開催し、普及拡大と本格実施を推進し、漁業者はその技術の習得に努める。</p> <p>小型定置漁業者は、サクラマス・ヒラメ・アイナメ等の船上活締めによる出荷量の増加、活締め後の迅速な箱詰めの徹底に取り組む。</p> <p>② 漁業者は、漁協荷捌き所に導入した海水殺菌装置を活用した殺菌海水による漁獲物の洗浄を徹底し、衛生管理を強化する。</p> <p>③ 漁業者及び漁協は、東通村生産物直売所で消費者のニーズを調査し、活締め対象魚種の拡大等を検討する。</p> <p>漁業者や漁協婦人部員は、スルメイカ加工品や海藻類加工品の生産量を増やし、東通村生産物等直売所及びむつ市内のスーパーで販売することにより、漁家所得の向上を図る。</p> <p>さらに、流通・販売状況を把握しながら製品の品質向上の検討とPR活動強化、他地域への加工販売の強化など、販売計画の見直しを随時行う。</p> <p>2) 良好なサケ海産親魚の供給等によるサケ回帰資源の増大</p> <p>④ 小型定置漁業者は、サケふ化場に対し、サケ成魚 120 尾を種苗生産向け親魚として供給し、種苗生産・放流数の安定化に繋げるとともに、河川環境改善のため上流部への植樹を行うことで、サケ回帰資源の増大による漁業所得の向上を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施</p> <p>⑤ 全漁業者は、船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	

5 年目（令和 7 年度）

以下の漁業収入向上の取組及び漁業コスト削減の取組により、基準年から 14.2% 以上の所得向上を図る。

取組の最終年度であり、前年度に引続き行うが、目標達成が確実なものとなるよう、プランの取組状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1) 水産物の付加価値向上の取組</p> <p>① イカ釣り漁業者は、適切な箱詰めと低温管理を徹底するほか、氷とスルメイカが直接触れないようにすることで白色化を抑制する。</p> <p>また、イカ活チャ器による高鮮度保持を行い、単価向上につなげる。漁協は、イカ活チャ器講習会を開催し、普及拡大と本格実施を推進し、漁業者はその技術の習得し、実施する。</p> <p>小型定置漁業者は、サクラマス・ヒラメ・アイナメ等の船上活締めによる出荷量の増加、活締め後の迅速な箱詰めの徹底に取り組む。</p> <p>② 漁業者は、漁協荷捌き所に導入した海水殺菌装置を活用した殺菌海水による漁獲物の洗浄を徹底し、衛生管理を強化する。</p> <p>③ 漁業者及び漁協は、東通村生産物直売所で消費者のニーズを調査し、活締め対象魚種の拡大等を実施する。</p> <p>漁業者や漁協婦人部員は、スルメイカ加工品や海藻類加工品の生産量を増やし、東通村生産物等直売所及びむつ市内のスーパーで販売することにより、漁家所得の向上を図る。</p> <p>さらに、流通・販売状況を把握しながら製品の品質向上の検討とPR活動強化、他地域への加工販売の強化など、販売計画の見直しを随時行う。</p>
---------------------	--

	2) 良好なサケ海産親魚の供給等によるサケ回帰資源の増大 ④ 小型定置漁業者は、サケふ化場に対し、サケ成魚 120 尾を種苗生産向け親魚として供給し、種苗生産・放流数の安定化に繋げるとともに、河川環境改善のため上流部への植樹を行うことで、サケ回帰資源の増大による漁業所得を向上する。
漁業コスト削減のための取組	1) 船底清掃及び減速航行の実施 ⑤ 全漁業者は、船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。
活用する支援措置等	

(5) 関係機関との連携

青森県水産振興課・漁港漁場整備課やむつ水産事務所、(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所・内水面研究所から指導を受け、年度毎に、漁業所得の向上面について、定量的に分析・評価を行う。また、問題点については原因を調査し、解決に向けた課題整理を行う。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成27年度～令和元年度までの5中3平均 ：漁業所得（1経営体当たり） 千円
	目標年	令和7年度 ：漁業所得（1経営体当たり） 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

別添資料参照

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

①鮮度保持によるスルメイカ・ヒラメ・アイナメ単価向上 ②サケ漁獲量の増大	基準年	平成27年度～令和元年度までの5中3平均 ① スルメイカ : 544円/kg ヒラメ : 901円/kg アイナメ : 1,006円/kg サクラマス : 847円/kg ② サケ : 90,735 kg
	目標年	令和7年度 ① スルメイカ : 569円/kg ヒラメ : 919円/kg アイナメ : 1,026円/kg サクラマス : 864円/kg ② サケ : 99,218 kg

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

別添資料参照

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性